

■10月23日（金）井戸端会議

「災害時の支えあいについて」

参加者 11 名

①防災安全課より「災害時の自助共助公助について」

まずは自助として自己・家族をまもることを優先し、共助として災害弱者（子ども、女性、高齢者）を近所や自治会等での支えあいが重要になってくる。災害時は住民 10 人の力が 10 人以上の力になる。共助の中には募金もある。遠方地の災害でも協力できることはある。公助は大きな力とはなるが細やかなことには力が発揮できないので、共助の支え合いは非常に重要である。例えば、避難所においては数日もすると、避難者たちからの要望が生まれてきて、そのまとめ役を務める人たちが生まれてくる。

防災安全課の方より、台風 19 号時の開成町避難所の避難状況をデータを一部提供いただく。傾向として、避難弱者といわれる年代（60 代と 80 代親子、小学生以下の子どもがいる世帯）が多く、地域としては酒匂川付近の地域が多い。ただ、榎本の避難がなかったとのこと。※詳細内容は別添

※データ詳細は別添資料②

②井戸端会議 意見集約

自治会	所属	令和元年の台風 19 号の際のご自身の様子	自治会防災対策	要援護者登録
金井島	福祉部	メールや放送で情報収集。要援護者マニュアルなどが無いため、避難指示などが出る前に自治会長に連絡をし、いざという時は動けますのでという話をした。※今後のためにも検証が必要	防災訓練では安否確認で 各世帯 黄色い布を家の外に出す。 （今年度 11 月中旬に予定）	マニュアルなし
円中	長生会	自分の家が安心 円中は大丈夫 河川の状況をウェブカメラでチェック どれくらいの推移で危険なのか知っておけば判断できる	今年度、防災訓練	
	長生会	雨戸を閉めて自宅待機 放送が聞き取れなかった		
	長生会	バケツに水を汲んでおいた 避難も考えておにぎりを作っておいた		
上島	福祉・民生	自治会長からメールで避難所開設について連絡 独居の方に連絡→避難するのに荷物が多く大変なので自宅にいる、と言われた。		防災担当が把握
	支えあい準備会	初めて養生テープを張って対策 要援護者登録の始まった当時の自治会長であった 要援護者登録は防災担当が把握している		
	上島 自治会	ひどくなる前には河川の様子を見に行ったがひどくなり自宅で待機 避難勧告が出れば動く準備 台風後には役員会で検証を行う		

上延沢	上延沢 民生	防災無線が外に出ないと聞こえないが台風のため外に出られない。養生テープを買おうと思ったが売り切れていた。台風の後次に備えて買っておいた。		
	下延沢 民生	対象者に電話で連絡した。避難するには荷物が多いので自宅にいる方のみ。 自身も高齢の母と障害を持つ身内がいるので不安であった。その時のことを考えるとトラウマである。		近所の支援者 ()ときちんと 顔合わせを行っている。
	下延沢 いきいき	あまり大変なことだと思っていなかった。ペットは避難できるのか？	下延沢の一部地域も鉢巻を出す。 障がい者の方がいるので。	
	牛島 いきいき	自主避難はせず 自宅近くに避難所が2か所 うち1つは福祉避難所でどちらに避難？と考えた		

- ・防災無線が聞き取れなかったという意見が多数あり→今年度よりデジタル化 スピーカーの場所が変更になったが聞こえない
空白地域あり（今後改善）
→金井島の方より、**防災無線電話 012-0173-178** の紹介あり
（各世帯でそれぞれ情報を集める工夫も必要／TV・電話・メール）
- ・災害時は情報収集手段を多く持つことも大切であり、日頃からの近所付き合いや自治会での防災活動が大切である。

■10月30日（金）井戸端会議

「災害時の支えあいについて」

参加者 11名

①防災安全課より「災害時の自助共助公助について」

まずは自助として自己・家族をまもることを優先し、共助として災害弱者（子ども、女性、高齢者）を近所や自治会等での支えあいが重要になってくる。災害時は住民10人の力が10人以上の力になる。共助の中には募金もある。遠方地の災害でも協力できることはある。公助は大きな力とはなるが細やかなことには力が発揮できないので、共助の支え合いは非常に重要である。例えば、避難所においては数日もすると、避難者たちからの要望が生まれてきて、そのまとめ役を務める人たちが生まれてくる。

防災安全課の方より、台風19号時の開成町避難所の避難状況をデータを一部提供いただく。傾向として、避難弱者といわれる年代（60代と80代親子、小学生以下の子どもがいる世帯）が多く、地域としては酒匂川付近の地域が多い。ただ、榎本の避難がなかったとのこと。

※データ詳細は別添資料②

②井戸端会議 意見集約

自治会	所属	令和元年の台風19号の際のご自身の様子	自治会防災対策	要援護者登録
牛島	民生・福祉部	民生の対象者で高齢の方に電話。終わってから、次回このような時は一緒に過ごそうと話す。		組長・民生委員・福祉部の3名で支援。
	福祉部	いつもは心配していなかったがさすがに心配になり、事前に避難準備を行う。避難するタイミングに困って、結果家にいた。		
宮台	福祉部	安心しきっていた。河原町に住む友人は文命中に避難していたので、その人の心配をしていた。	毎年全世帯の記録を各世帯提出。（3役で把握）	
	福祉部	何も気にしていなかった。近くの川も今まで台風で氾濫したこともなかったので。		
下島	民生、元自治会長、防災リーダー	元行政において河川の担当をしていた。何年前の台風時に浸水した家の人から相談を受けた。垂直避難と雨情報は重要。まずは自助だと思う。		要援護者は組長が把握するという流れにやっとこぎつけた。来年度の新組長の承認が得られれば。
	民生	当時はまだ民生ではない。紫水大橋下の貯水池はあまりたまっていなかった。避難準備はした。近所の平屋の人が気になり連絡した。息子が迎えに来てくれると話していたが、今後このような事態には我が家の2階で過ごしましょうと話す。		
	民生	民生の対象者数人に連絡。困難なケースあ		

下島		り。高齢で1人暮らしだが近所に長男夫婦あり。折り合い悪いため孫が避難所に連れていく。その最中に、自治会長に自治会館を避難所として開けてほしい依頼などしたが、浸水地域のためできないといわれる。 天候不良の避難は大変。早めに避難所が開設されるとよい。		
	民生	耳の不自由な対象者。はじめは大丈夫とメールが来るが、時間がたち不安を訴えるので自身の自宅でしばらく過ごし、帰ったがまた不安になり自宅に来た。民生委員としてどこまですればよいか、線引きがむずかしい。		
	民生	台風後の話を聞きに行った。足の不自由な方への対応はどうしたらよいか。避難の際は大変。		
	民生	仙了川の氾濫に備え車の移動を行う。対象者の方と災害時の対応の話をしておこうと思う。消防団にも入っていて、まずは自助が大切であると感じている。		
中家村	民生	一人暮らしの方へ電話。一人の方は荷物も多いので息子に避難所に送ってもらうと話す。自身は浸水地域だが、大丈夫だと思っていた。		登録を必要とする人が自分で探し、自治会長に報告。

・無駄になってもいいので早めの避難所開設を、という要望は民生委員から多く上がる。

・民生委員としてどこまでできるのか、線引きがむずかしい。

→平時の際にあらかじめ避難の流れを決めておくことが大切（曽我保健師）